

P 2 0 6 □相対度数

ひろげよう 「ひろげようを読んでください。」

(6 c mの紙コプターを実際に作り落下させてみるとよい)

「教科書の別のクラスで実験した結果をのせてくれています。」

「しかし、困ったことに全体の度数が違ってきます。」

「そのまま度数を比べてもダメです。」

こんなときは、その度数の全体に対する割合を求めて比較します。これを**相対度数**と言います

$$\text{相対度数} = \frac{\text{階級の度数}}{\text{全体の度数}}$$

例1 6 c mの紙コプターで2. 6 5秒以上2. 8 0秒未満の階級は
小数第2位まで求めると、

$$3 \div 80 = 0. 037 \quad = 0. 04$$

↑
四捨五入

問6 7 c mの紙コプターで2. 3 5秒以上2. 5 0秒未満の階級の相対度数は

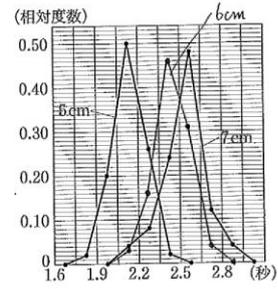
$$12 \div 50 = 0. 24$$

問7

紙コプターの滞空時間

滞空時間(秒)	6 cm	7 cm
	度数(回)	度数(回)
2.05 ^{以上} ~ 2.20 ^{未満}	2	2
2.20 ~ 2.35	13	4
2.35 ~ 2.50	37	12
2.50 ~ 2.65	25	24
2.65 ~ 2.80	3	6
2.80 ~ 2.95	0	2
計	80	50

滞空時間(秒)	5 cm		6 cm		7 cm	
	度数(回)	相対度数	度数(回)	相対度数	度数(回)	相対度数
1.75 ^{以上} ~ 1.90 ^{未満}	1	0.02	0	0.00	0	0.00
1.90 ~ 2.05	10	0.20	0	0.00	0	0.00
2.05 ~ 2.20	25	0.50	2	0.03	2	0.04
2.20 ~ 2.35	13	0.26	13	0.16	4	0.08
2.35 ~ 2.50	1	0.02	37	0.46	12	0.24
2.50 ~ 2.65	0	0.00	25	0.31	24	0.48
2.65 ~ 2.80	0	0.00	3	0.04	6	0.12
2.80 ~ 2.95	0	0.00	0	0.00	2	0.04
計	50	1.00	80	1.00	50	1.00



「羽の長さが長い方が滞空時間が長いと言える」